

朱七だより

令和7年度第2回
学校評価臨時号

12月に行いました学校評価アンケートに多数ご協力をいただき、ありがとうございました。

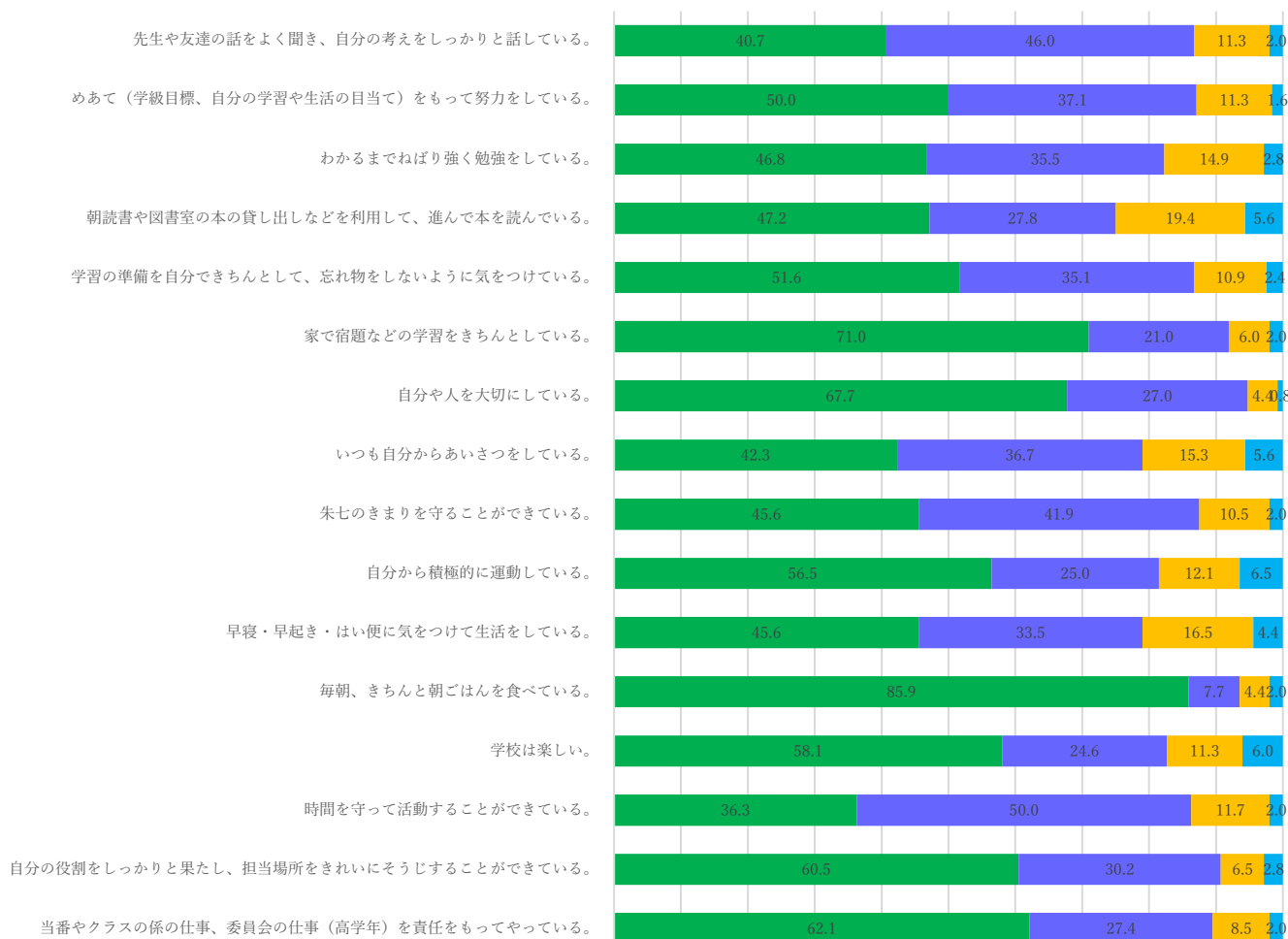
保護者の皆様からたくさんの回答をいただきました。この学校評価臨時号では、保護者アンケート・児童アンケート・教職員の自己評価の結果を合わせてお知らせします。この結果をもとに、学校・家庭・地域が今まで以上に連携しながら、さらに子どもたちを育む今後の学校づくりに生かしていきたいと思っております。

たくさんのご回答ありがとうございました

児童アンケート、保護者アンケート、教職員アンケートそれぞれの質問項目の関連性を考慮し、児童の自己評価から見られる様子に対して家庭と学校がどのように感じており、どのように関わっていくとよいかについて分析いたしました。それぞれの質問について、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」を肯定的な意見として捉え、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」を改善が必要な点として見つめ、今後の教育活動をよりよくしていくための指標としています。各アンケート結果をもとに分析したことをお届けいたします。

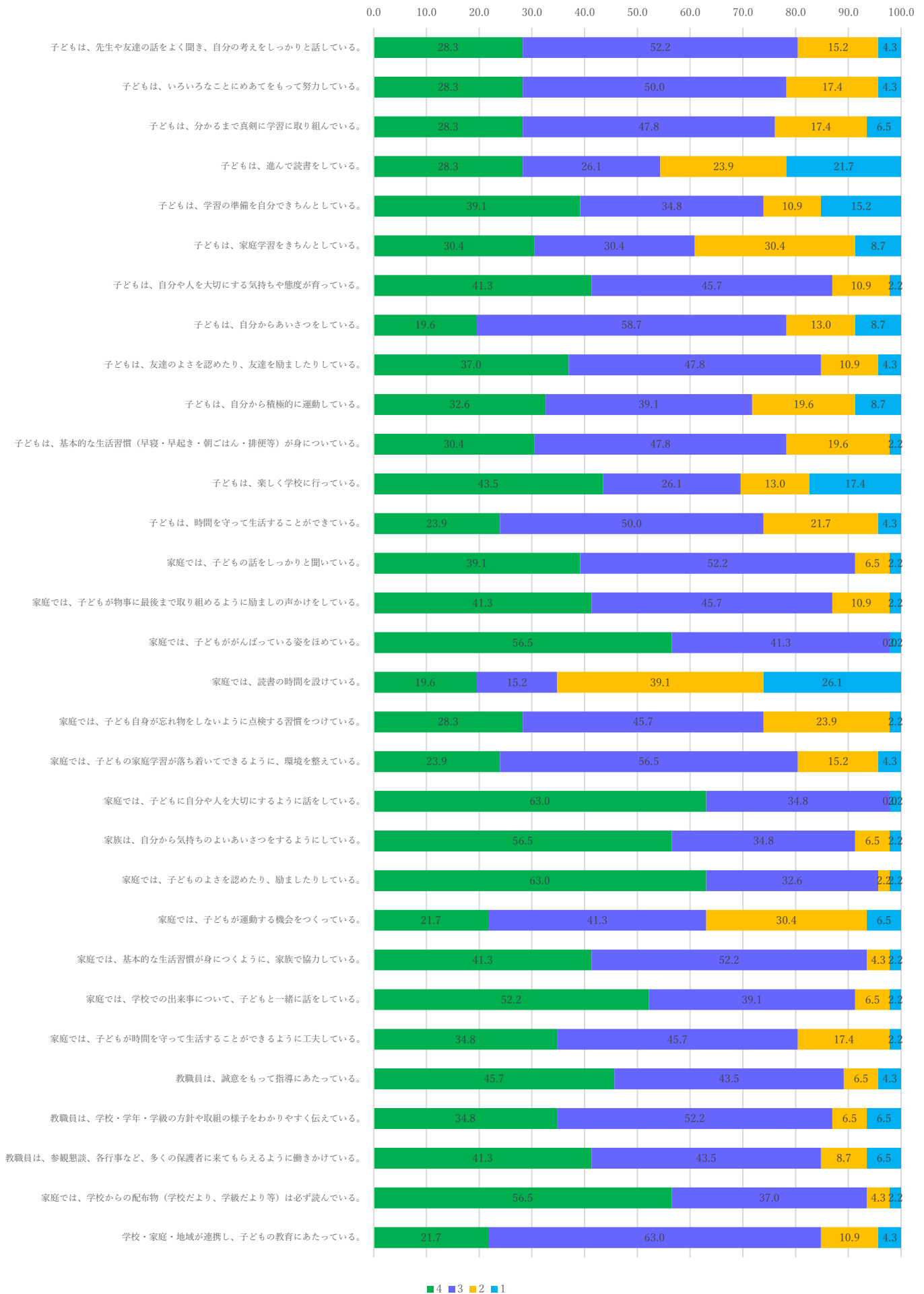
R07 12月学校づくりアンケート（児童）

0.0 10.0 20.0 30.0 40.0 50.0 60.0 70.0 80.0 90.0 100.0

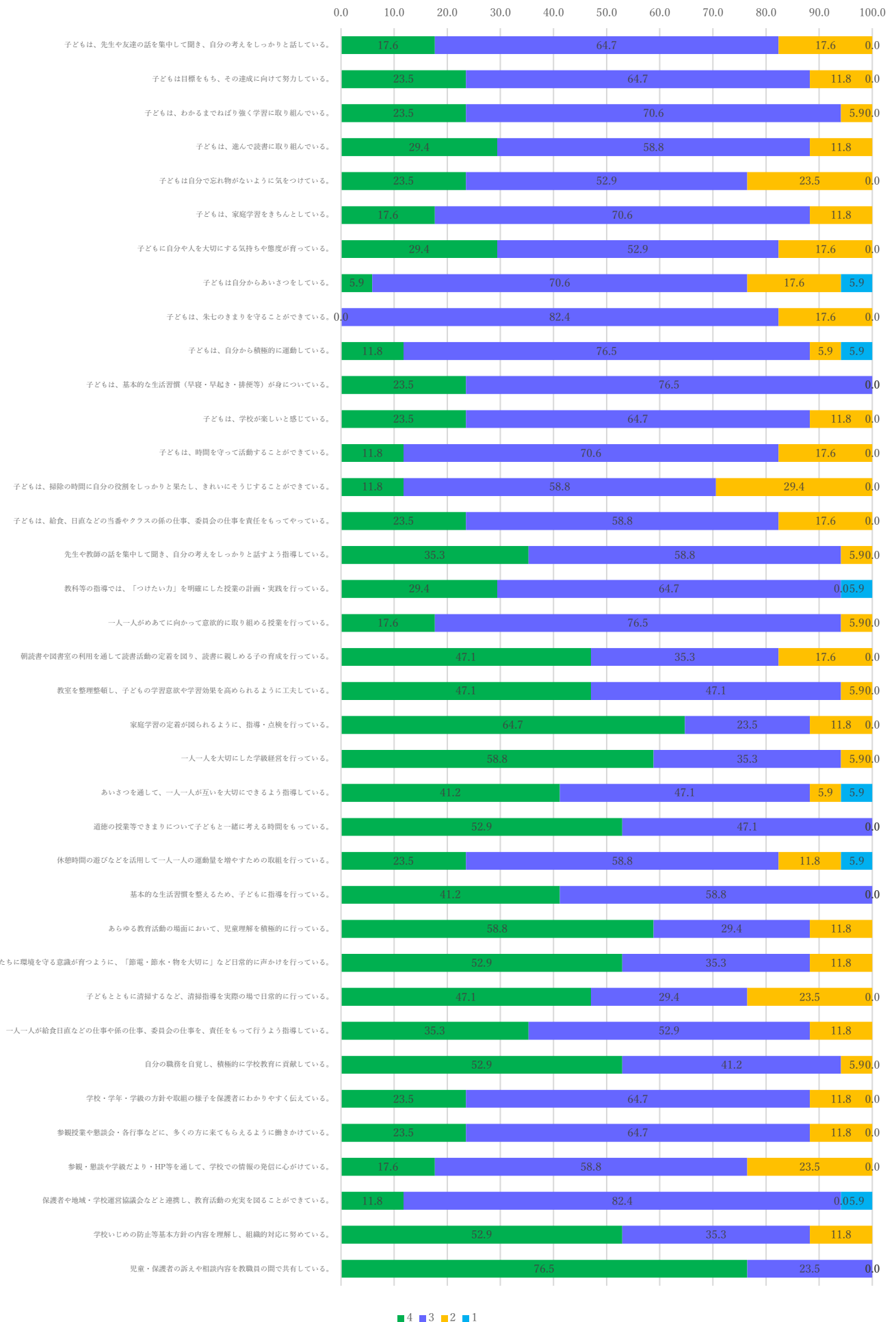


■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

R07 12月学校づくりアンケート（保護者）



R07 12月学校づくりアンケート（教職員）



■4 ■3 ■2 ■1

◎「わかるまで粘り強く勉強をしている」がアップ

12月に実施した学校づくりアンケートで、児童の「わかるまで粘り強く学習している」という項目の「できている」と答えた割合が、前回より約5%アップ(77.6%→82.3%)しました。これは、子どもたちが自分の学びに対して前向きに取り組む姿勢を身につけてきた証です。

本校では今年度、算数科を中心に「課題発見力」「コミュニケーション力」「課題解決力」の伸長を目指して研究を進めてきました。授業では次のような工夫を積み重ねてきました。

- ・課題を明確に捉え、見通しをもって取り組む
- ・友達と協働しながら考えを交流し、解決策を探る
- ・最後に振り返りを行い、学びを自分の言葉でまとめる

こうした学びのプロセスを繰り返すことで、子どもたちは「わからないことに向き合う力」「あきらめずに考え続ける力」を育んできました。今回のアンケート結果は、その成長を子どもたち自身が自覚していることを示しており、私たちにとって大きな喜びです。

今後も、目標をもって取り組む姿勢と協働的な学びを大切にしながら、一人ひとりの力をさらに伸ばしていきます。また、自分の考えを根拠をもって説明する力や、ICTを活用した協働的な学びの充実、学びを生活や社会と結びつける視点の強化も目指していききたいと思います。

ぜひご家庭でも「今日の学びで頑張ったこと」を話題にしていただけると、子どもたちの意欲がさらに高まると思いますので、ご協力よろしくお願いいたします。

◎運動への意識が高まりました！

児童の「自分から積極的に運動している」という項目の「できている」と答えた割合が、前期より約6%アップ(74.6%→81.5%)しました。休み時間や放課後に、ドッジボールや鬼ごっこ、なわとび、遊具遊びなどを楽しむ子どもたちの姿が増えていることを、日々の学校生活でも感じています。

「子どもは遊ぶのが仕事」と言われるように、遊びの中には体力の向上だけでなく、社会性や協調性、ルールを守る力など、豊かな学びが詰まっています。友達と一緒に体を動かすことで、コミュニケーション力や思いやりの心も育まれます。

さらに、本校では昨年度から、京都市教育委員会主催の「スポーツチャレンジ大会」に積極的に参加してきました。大縄跳びやボール運動などで、全市1位の表彰を何度もいただくなど、子どもたちの努力とチームワークが大きな成果につながっています。

まだまだ寒い日が続きますが、運動は心身の健康を支える大切な活動です。体を動かす楽しさを感じながら、仲間と協力し、元気いっぱい過ごす子どもたちの姿を、これからも応援していきます。



☆読書の習慣を！

今回の児童アンケートでは、「進んで本を読んでいる」と答えた児童が75.0%で、前回の78.9%から約4%下がりました。また、保護者アンケートでは、「子どもは進んで読書している」が54.4%（前回67.1%）、「家庭では読書の時間を設けている」が34.8%と、いずれも減少傾向にあります。これらの結果から、学校だけでなく家庭でも読書に親しむ時間が減っていることがわかります。

読書は、子どもの成長にとってとても大切な習慣です。本を読むことで、言葉の世界が広がり、語彙や表現力も豊かになります。これは、作文や会話の力を育てる基盤となります。また、読書は集中力を養う時間でもあります。ページをめくりながら物語や情報に向き合うことで、学習に必要な「じっくり取り組む力」が身につきます。さらに、物語を読むとき、子どもは頭の中で場面や人物を思い描きます。この想像する力は、創造力や問題解決力にもつながります。読書は心を落ち着ける効果もあり、忙しい毎日の中で安心できるひとときを与えてくれます。そして、図鑑やノンフィクションを読むことで、自然や科学、社会など幅広い知識を得ることが出来ます。こうした力は、子どもの未来を支える大切な財産となります。

学校でも引き続き読書活動を充実させてまいります。ご家庭でも、ぜひ読書の時間を意識していただければ幸いです。

～ 家庭でできる読書習慣の工夫 ～

① 親子で一緒に読む時間をつくる

短い時間でも構いません。
親子で同じ本を読んで感想を話し合う
のもお勧めです。

② 読書環境を整える

本棚を見やすい場所に置く、
図書館や書店に出かけるなど、
自然に本に触れられる工夫を。

③ 興味に合わせた本選び

物語、図鑑、マンガなど、子どもの「好き」
をきっかけにすることで読書が楽しくなります。

④ デジタル読書も活用

電子書籍やオーディオブックも選択肢に。
移動中や隙間時間に読書できます。

☆きまりを守って、みんな笑顔の学校に

児童アンケートで「朱七のきまりを守ることができている」と答えた児童は87.5%でした。教職員アンケートでは「できている」は82.4%ですが、「よくできている」は0%でした。概ねできているものの、課題が感じられます。

学校には、学習や生活を安全で安心なものにするためのきまりがあります。きまりを守ることは、単に「きまりだから守る」ということではなく、自分や友達を守り、みんなが気持ちよく過ごすための約束です。例えば、時間を守ることは学習の準備を整え、授業をスムーズに進めるために欠かせません。また、持ち物をきちんと準備することは、責任感を育てる第一歩です。あいさつや丁寧な言葉遣いを心がけることは、人間関係を円滑にし、思いやりの心を育てます。

こうしたきまりを守る経験は、将来社会で生きていくための基本的な力を育てます。きまりを守ることで、責任感（自分の行動に責任をもつ力）、自立心（自分で考え、行動を調整する力）、協調性（まわりと気持ちよく過ごすために配慮する力）などの力がついていきます。

小学生のうちに「きまりを守ることは自分や周りの人を大切にすること」という意識を身につけることが、将来の自立や社会性の基盤になります。

学校でのきまりを守るためには、家庭での声かけや習慣づけがとても大切です。なぜそのきまりがあるのかを話し合い、納得して守れるようにしたり、あいさつや丁寧な言葉遣いを家庭でも意識したりすることが、子どもたちの成長を支える大きな力になります。学校と家庭が協力しながら、子どもたちが安心して学び、健やかに成長できる環境をつくっていきましょう。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。